

実践事例

「できたよこびを味わわせる器械・器具を使った運動遊び」の実践を通して

南部町立会見小学校 安達 嘉也

1 はじめに

西伯郡では、「未来へとたくましく生きる体づくりができる子どもの育成をめざして～友だちとのかかわり合いを生かした学習の流れの工夫を通して～」というテーマで低学年での器械・器具を使った運動遊びを中心に研究を進めている。特に、学習内容の明確化と学習過程の工夫に焦点を当て、研究主題をもとに2つの仮説を立てた。1つ目が学習内容を明確にし、指導方法や支援の仕方を工夫すれば、「できる」「わかる」という質の高い喜びを味わわせることができるであろうということ、2つ目が学習過程の中で、運動の特性に十分にふれ、言語活動を充実させ、仲間とのかかわり合う場を位置づければ、互いのよさに学び合い、高め合うことができるであろうということである。そして、この2つの仮説のもと、「できたよこびを味わわせる器械・器具を使った運動遊び」というテーマで実践を行った。

2 実践について

(1) 学習内容の明確化、指導方法や支援の仕方について

右図は、跳び箱のスタンダード表である。すべての児童に身に付けさせたい技能をスタンダードと呼んでいる。そして、体育学習を「支える学習」・「基本学習」・「発展学習」の3つの学習で構成し、すべての児童に身に付けさせたい技能、つまり、スタンダードを習得するための場を「基本学習」とした。また、その領域の技能に必要な基礎感覚を身に付ける場を「支える学習」とし、学習前に本運動につながる予備運動としても行った。さらに、基本学習で習得した技や今までに習得してきた技能を生かして、組み合わせたものやレベルアップしたものに挑戦したり、また新たな技能を探究したりする場を「発展学習」とした。学習指導要領では、指導目標・内容が2学年のくくりで明記されているが、1学年ごとにスタンダードを具体的に明記したことで、1学年で取り上げる内容がはっきりとし、ねらいをもって授業づくりができるようになった。

また低学年では、児童が意欲をもって運動できるように、ストーリー性を持たせた単元づくりや場づくりを、またすべての児童に確実にスタンダードを身に付けられるように課題に応じた場の設定などを工夫した。そして、児童が器械・器具を使った運動で楽しく遊ぶことができるように、授業の後半には、探検遊びや忍者遊びの時間も設定した。児童は、探検隊員や忍者になって運動を楽しんだ。また、探検隊や忍術チームを構成することで、チーム全体で教え合ったりする姿が多く見られ、マットや跳び箱が苦手な児童も仲間と関わりながら楽しんで運動していた。

学習板には、技能ポイントや本時、単元の学習の流れなどを掲示し、児童が見通しをもち、意欲的に運動に取り組めるように工夫した。また、指導者の師範を見せながらポイントの確認をすることで、技のポイントを理解し低学年なりに技

| 会見小学校 跳び箱 学習モデル | | |
|--|---|--|
| 支える学習 <small>全ての児童のよさに必要な基礎感覚を身に付けさせる。低学年では特に基礎感覚を身に付ける。</small> かえる跳び手押し車 かえるのぼうち アンバー跳び 鳥とび またぎ重り・下り 跳び集り・下り | 基本学習 (スタンダード) 1年 両脚跳び(1回) 踏みこ跳び(1回) 両脚跳び(2回) 両脚跳び(3回) 両脚跳び(4回) 両脚跳び(5回) 両脚跳び(6回) 両脚跳び(7回) 両脚跳び(8回) 両脚跳び(9回) 両脚跳び(10回) | 発展学習 両脚跳び(11回) 両脚跳び(12回) 両脚跳び(13回) 両脚跳び(14回) 両脚跳び(15回) 両脚跳び(16回) 両脚跳び(17回) 両脚跳び(18回) 両脚跳び(19回) 両脚跳び(20回) |
| | 2年 両脚跳び(11回) 両脚跳び(12回) 両脚跳び(13回) 両脚跳び(14回) 両脚跳び(15回) 両脚跳び(16回) 両脚跳び(17回) 両脚跳び(18回) 両脚跳び(19回) 両脚跳び(20回) | 両脚跳び(21回) 両脚跳び(22回) 両脚跳び(23回) 両脚跳び(24回) 両脚跳び(25回) 両脚跳び(26回) 両脚跳び(27回) 両脚跳び(28回) 両脚跳び(29回) 両脚跳び(30回) |
| | 3年 両脚跳び(11回) 両脚跳び(12回) 両脚跳び(13回) 両脚跳び(14回) 両脚跳び(15回) 両脚跳び(16回) 両脚跳び(17回) 両脚跳び(18回) 両脚跳び(19回) 両脚跳び(20回) | 両脚跳び(21回) 両脚跳び(22回) 両脚跳び(23回) 両脚跳び(24回) 両脚跳び(25回) 両脚跳び(26回) 両脚跳び(27回) 両脚跳び(28回) 両脚跳び(29回) 両脚跳び(30回) |
| | 4年 両脚跳び(11回) 両脚跳び(12回) 両脚跳び(13回) 両脚跳び(14回) 両脚跳び(15回) 両脚跳び(16回) 両脚跳び(17回) 両脚跳び(18回) 両脚跳び(19回) 両脚跳び(20回) | 両脚跳び(21回) 両脚跳び(22回) 両脚跳び(23回) 両脚跳び(24回) 両脚跳び(25回) 両脚跳び(26回) 両脚跳び(27回) 両脚跳び(28回) 両脚跳び(29回) 両脚跳び(30回) |
| | 5年 両脚跳び(11回) 両脚跳び(12回) 両脚跳び(13回) 両脚跳び(14回) 両脚跳び(15回) 両脚跳び(16回) 両脚跳び(17回) 両脚跳び(18回) 両脚跳び(19回) 両脚跳び(20回) | 両脚跳び(21回) 両脚跳び(22回) 両脚跳び(23回) 両脚跳び(24回) 両脚跳び(25回) 両脚跳び(26回) 両脚跳び(27回) 両脚跳び(28回) 両脚跳び(29回) 両脚跳び(30回) |

スタンダード表



忍者遊び



学習板

を見合いながら学習に取り組むことができた。また、学習板には単元の計画表も掲示することで、低学年であっても児童は、単元や学習の流れの見通しがもて、安心感して学習に取り組むことができた。

(2) 学習過程の工夫について

1時間の学習を「課題把握」→「課題の追究」→「振り返り」→「次時の見通し」を基本的な流れとして取り組んだ。このような流れを組むことで、目標も明確になり、課題解決に向けて児童が主体的に関わり、高め合いながら運動に取り組むことができた。また、児童同士が学習中に言語活動でのかわり合いを積極的にしていくための手立てとして、2つの声「はげましの声」・「ポイントの声」を具体的に児童に提示した。「いいよ。」「ドンマイ。」など励ましや賞賛の声を「はげましの声」,「ここが上手だったよ。こうしたらもっとよくなるよ。」など運動や技のポイントについてのアドバイス・声かけを「ポイントの声」とした。全体の話し合いでポイントの声を使って運動や技のポイントを押さえたり、教師も積極的にこの2つの声を使って言葉かけをしたりすることで、児童もその言葉を使って互いにアドバイスや補助をすることができ、質の高い見合いへとつながった。跳び箱の学習では、「トン」「パン」「ポン」といったオノマトペでの声かけや「足をバネにして踏み切って」「勢いをつけて」といった声かけが随分とできるようになった。ハイタッチや円陣・声かけなど最初はルール化していたが、今では自然とできるようになり、肯定的なかわりが増え、コミュニケーション能力が育ってきた。



友達へのアドバイス



全体での話し合い

3 成果と課題

成果

- 運動の系統表、会見スタンダードの作成により、各領域、各学年で身に付けさせたい技能が明確になり、6学年を見通した指導ができるようになった。
- 運動遊びにストーリー性をもたせることで児童の意欲を高めることができた。また、学習板の活用により、児童が技のポイントを理解し、互いの動きを見合ったり、よさをまねたり、新しい動きに挑戦したりする姿につながった。
- 学習過程に話し合う活動を入れ、問いかけ型の発問を大切にするすることで、児童が問題意識をもち、ポイントに気付くことができた。また、話し合いを通して、技能面だけでなく、仲間の動きもしっかり見ようとする姿勢が育ってきた。

課題

- 年間指導計画と運動の系統表、会見スタンダードの見直しと充実を図っていききたい。低学年の器械・器具を使った運動遊びを研究して、低学年ではもっと大きなくりで単元を構成してもよいのではないかと考えるようになった。例えば跳び箱・マットあるいは鉄棒等の学習も含めて大きな単元を計画するとストーリー性もさらに膨み、関連性もより深まってくると考える。
- 指導過程の中での課題追究、振り返りの充実を図っていききたい。児童が問題意識をもち、主体的にポイントに気付くことができるよう、発問を含め学び合いの場の質の向上を目指していききたい。